

9. 食道がん

○

○:専門とするがん △:グループ指定により対応しているがん ×:診療を実施していないがん
 ※別紙4に入力した内容が反映されています。
 ※診療を実施していないがんについて、表の記載は不要

集学的治療・標準的治療の提供体制
 ○:あり △:グループ指定により対応(地域がん診療病院のみ選択可) ×:なし ○

当該疾患の診療を担当している診療科名と医師数			治療の実施状況(○:実施可/×:実施不可) /昨年の実績(あり/なし)※平成25年1月1日~12月31日									各診療科における当該疾患の治療の特色・患者さんへのメッセージなど	当該疾患の治療に関する内容が掲載されているページ		
主な診療科名 (5診療科まで)	医師数	当該疾患を専門としている医師数	手術		内視鏡的治療		化学療法	放射線療法		光線力 学療法	ページの見出しとアドレス ※トップページ以外を2つまで記載してください ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください		掲載されている内容		
			開胸手術	胸腔鏡下手術	EMR	ESD		体外照射	小線源治療				治療内容	治療実績	医師の専門分野
1 消化器外科	11	3	状況 ○	○	○	○	○	×	×	×	現在のところ食道癌に対する最も確実な治療法は外科的切除です。一方、早期(Stage I)癌に対しては化学放射線療法でも60-70%の患者さんにおいて根治が期待できることが最近我々の関与した臨床研究によって明らかになってきました。早期癌の患者さんに対しては、手術・色素内視鏡・拡大内視鏡・特殊光観察を駆使し、食道癌・胃癌の早期発見に努めています。治療方針に関しては、超音波内視鏡などを用い、外科との合同カンファレンスで検討しています。内視鏡的粘膜切除術(EMR)のみならず、早期胃癌に対する内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)にも取り組んでいます。また放射線治療は、眼に見えない放射線という物質を巧みに操ることで腫瘍性疾患を消滅・縮小させるものです。うまく使えば手術や化学療法以上に素晴らしい力を発揮します。もちろん欠点もありますから、他の治療との連携が非常に重要です。そして、患者さんの意識がある状態で行うことが多いので、患者さん	ア 独立行政法人国立病院機構大阪医療センター http://www.onh.go.jp/surgery/html/sikkan/joubu.html	掲載あり	掲載あり	掲載あり
			実績 あり	あり	あり	あり	あり	なし	なし	なし		イ http://			
2 消化器内科	9	9	状況 ×	×	○	○	○	×	×	×	独立行政法人国立病院機構大阪医療センター http://www.onh.go.jp/ge/index.html	掲載あり	掲載あり	掲載あり	
			実績 なし	なし	あり	あり	あり	なし	なし	なし		イ http://			
3 放射線治療科	2	2	状況 ×	×	×	×	×	○	○	×	独立行政法人国立病院機構大阪医療センター http://www.onh.go.jp/radiolog/	掲載あり	掲載あり	掲載あり	
			実績 なし	なし	なし	なし	なし	あり	あり	なし		イ http://			
4			状況								ア http://				
			実績								イ http://				
5			状況								ア http://				
			実績								イ http://				

グループ指定を受ける施設との連携状況 ※グループ指定を受ける場合のみ記載すること	
---	--

昨年の治療実績ありの疾患名 ※平成25年1月1日~12月31日	例:食道がん 食道がん
------------------------------------	----------------